

これで…何回目よ…?
…テツ…

はあ



…四回目ツスね…

はあ

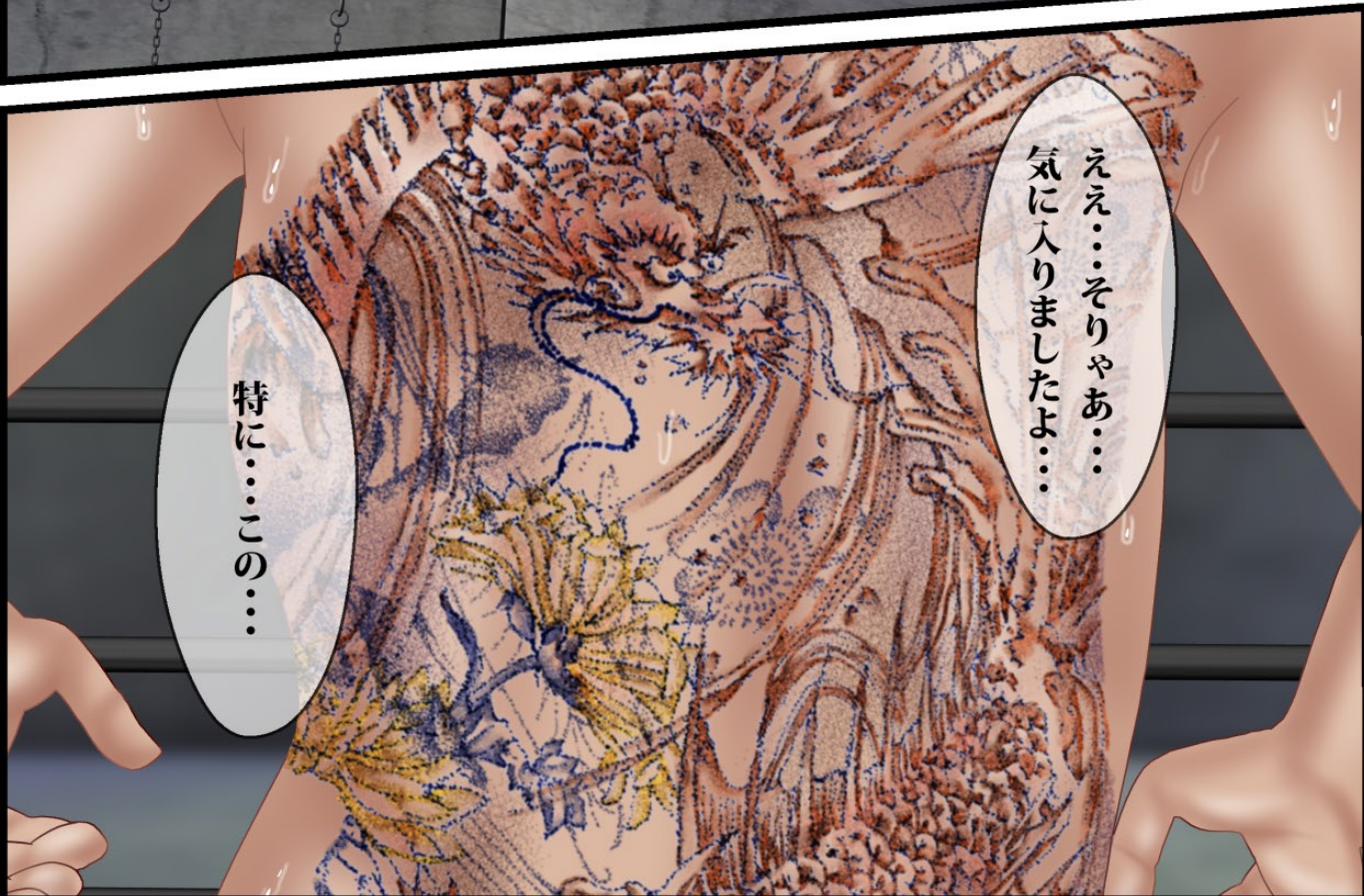
はあ

お前も好きやな…
…気に入ったか?



ええ…そりゃあ…
気に入りましたよ…

特に…この…



キュン

んっ……ふ……

んっ……

グハッ

ドゥ……

はぁ

キュン

真っ白で……
でっけえケツが……

はぁ

はぁ

ピクピク...

はあ

ズクッ

クワクワ...

ピクピク...

はあ

あ、ぐらう！

ンオオツ...

はあ



おぐうううツ...

はあ

つぐ!あう!

はあ

ギニツ

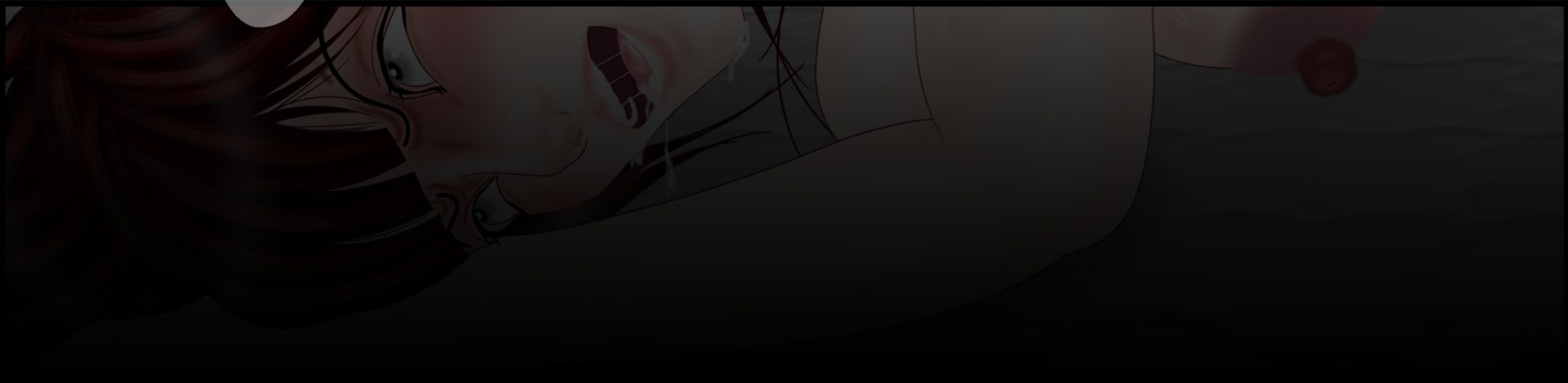
了解ッス...
まあ任せて下さい...

ツツ...

ツツ...

ギニツ

味見が終わったら...
頼むぞ、テツ...



さてて…まだお時間は
宜しいでしょう？原田さん

ええ…大丈夫です

なら、手前味噌になりますが
自分の店に行きまじょうか

凄いですね、社長…
お店をお持ちなんですか…

いやいや…小さいバーでね
大した事は無いですよ…

俺は…原田博人、某都市銀行に勤めている。
今日は地方都市に出張中…
この街には、仕事関係の上得意が居る。
俺より年下だが、中堅会社のオーナーだ。



じゃあ…ちよつと失礼…
店に電話しますんで…

柳龍二(やなぎ・りゅうじ)、まだ二十八歳らしい。
一代で会社を築き、自社ビルを三棟持つ実業家。
テナント業が主な事業なんだが…
この風貌…どう見ても堅気かたきの人間ではない。

そう、大事なお客さんや…
VIP空けといってくれ…

柳です…ご苦労さん…
今から店行くから…

わざわざすみません、社長…
有り難う御座います…



いえいえ…
お安い御用ですよ…

これで二十八だつて…?
凄い迫力だな…気を引き締めないと
相手のペースに呑まれるぞ…



さあ、どうぞ原田さん…

Bar
Masquerade

はい…では失礼します

キヤ…

いらっしやいませ…
お待ちしております、原田様
店長の佐々木でございます…

こんばんは…
いつもお世話になります

佐々木、部屋の用意は

はい、もう出来ております

そうか、で…今日バーニーは
誰が入っとるんや

なるほど…良い雰囲気のお店が…
額に傷の在る店長か…客も男ばかり…
これは…普通のバーじゃないな…

本日は…マイとユリです

分かった…ユリをVIPに
回してくれ…キープな

ユリってさ…俺とコイツ
どっちがタイプよ？

え…どちらかなんて
決められません…(笑)

かしこまりました…
すぐにご案内させます…

へえ…バニーガールがいるのか…
しかし、結構なハイレグだな…
この子達目当ての男も多そうだ…

いらつしやいませ、
原田様……

ユリと申します……
宜しくお願い致します

お疲れさん、ユリ……
ちよつとご無沙汰やな

お疲れさまです……
そうですね、半月くらい？

それくらいか……
まあ、宜しく頼むわ……

はい……
かしこまりました……

俺は……目の前のバニーを凝視したまま
金縛りの様に……動けなくなっていた。
何故なら……ユリと呼ばれたバニーは……

A woman with red hair and black bunny ears is dressed in a black bunny girl outfit, including a corset, a bow tie, and stockings with garters. She is smiling and holding a silver tray with a glass of red wine garnished with an orange slice. The background is a blurred, warm-toned interior, possibly a bar or restaurant.


では、原田様……
どうぞいっしょに……

今から一年前……
一通の手紙だけを残し、突然失踪した俺の妻、
「原田由利子」に、瓜二つだったからだ。

体験版


寝取られ妻
マスカレード





そう……あれは一年前の事だった。
仕事を終えた俺は、自宅の前に着いた。
そして……妙な胸騒ぎを覚えた。

いつも灯っている筈の明かりが無く……
自宅は、真っ暗なままだったからだ。



帰ったぞ、由利子…
居ないのか……？

おい、由利子…

そこに……いつも居る筈の妻が居なかった。
まるで、急に思い立ったかの様に……
由利子の……その姿が消えている気がした。



リビングのテーブルには……
無造作に置かれた、一枚の便せんがあった。
そこには、走り書きの文字で……

あなたへ

私はもう……この家には居られません。
そして、あなたとも暮らせなくなってしまいました。
こんな事になってしまつて……本当にごめんなさい。
あなたが悪い訳ではありません。
私は……今でもあなただけを愛しています。
今まで私は……本当に幸せでした。
どうか私を捜さないで下さい。

由利子

瀬川

余りにも唐突だった、妻の失踪……。俺はパニックになり、警察にも相談を試みた。だが事件性は低く、先ず嫁の実家に連絡を、と勧められ……

売物件

管理 ○○不動産

TEL 090 54xx XXXX

由利子の実家に電話をしたが、全く繋がらない。不安になった俺は、その実家に向かったのだが……。そこで観たものは、誰も居なくなった屋敷。そして……「売物件」を示す、立看板だけだったのだ。

あの日から、今日まで……
由利子からも、親族からも、連絡は一切無かった。
一体……妻は何処へと……日々苦悩していた。


結婚して、マイホームも建てたばかりだ。
妻と過ごした日々は、たった二年と数ヶ月。
今年で……もう三十歳になる由利子は……
俺との子供を……欲しがっていたのに。



あのバニーは…どう観ても妻の由利子だ。
声、背格好、白い肌、そして…整った顔立ち。
間違いない。俺の妻、原田由利子だった。

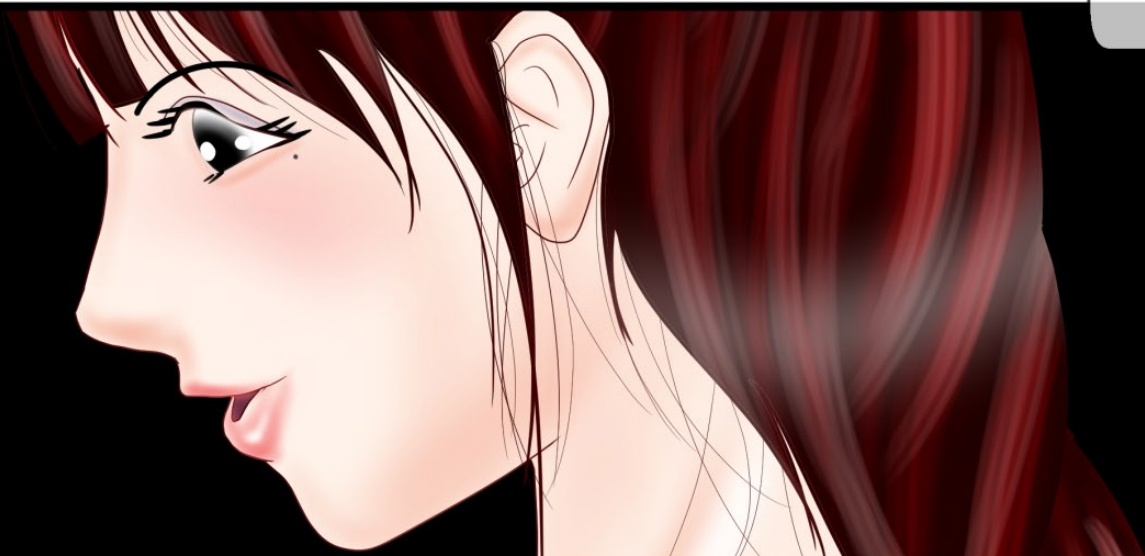


だが…何故、妻は俺を観ても動じないのか。
記憶喪失…？それとも演技なのか？
どうしてこんな店でバニーガールを…



案内されたVIPルームは…
真っ黒な壁、真っ黒な床、天井…
そして…黒いバニーガールの由利子…

いや…待て…違…
失踪した、妻の由利子に生き写しの、ユリ…
そう思った方が、今は良いのかも知れない…
何故なら…



そうですね、今日は
金曜日ですから…

どうや、ユリ…
今日も割と忙しそうやな？

原田様もスコッチで
宜しかったですか？

あ…はい…
お願いします…

そう…何故なら…
このユリという女には…妻と違う点が…
微かながら、在ったからだ…

いやいや、原田さん…
ユリに敬語なんか要らんよ(笑)

はい、原田様…
オーナーの云う通りです(笑)

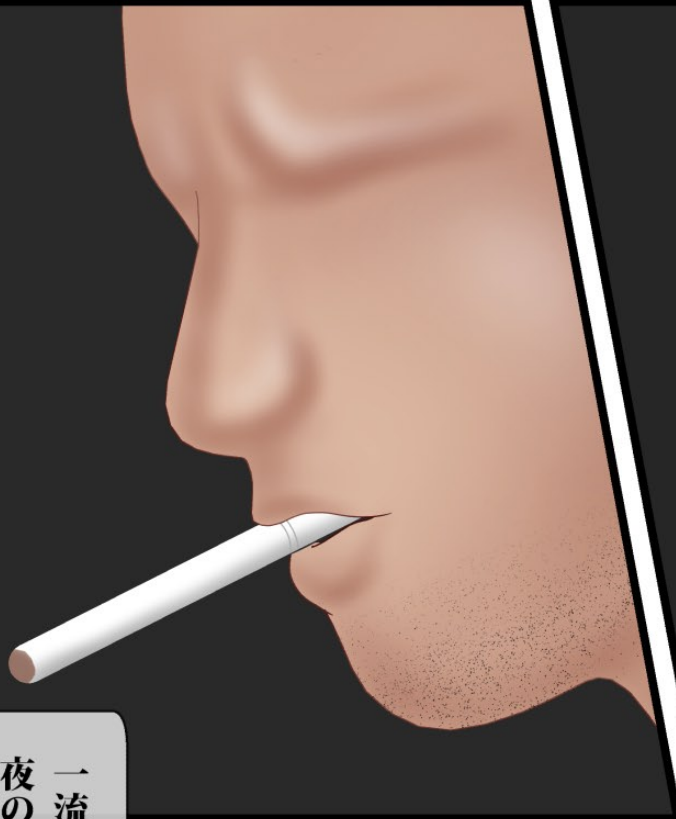
いえいえ…
どうかお気遣い無く…

この…手慣れた、落ち着き様はどうだ…
声も、体型も、顔も…由利子と瓜二つだが…
俺と話しても、全く態度が変わらない…

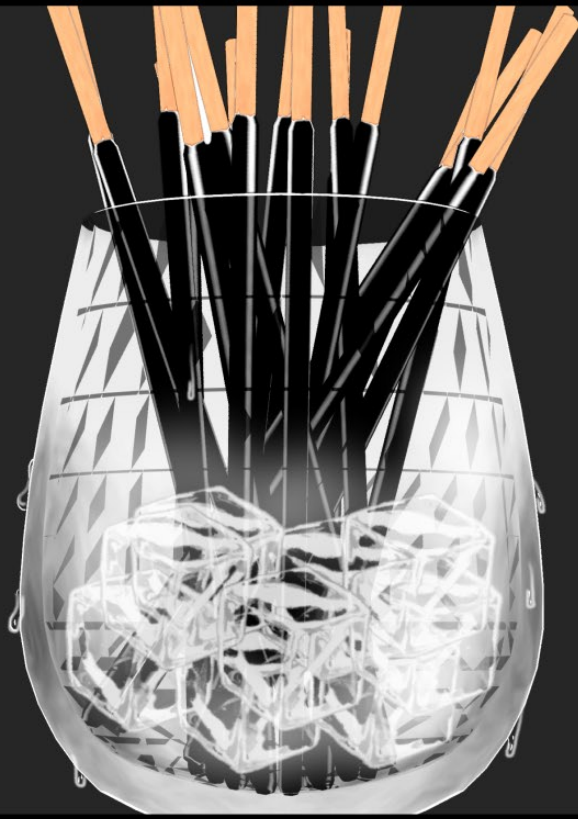
ムフッ…

ムフッ…






一流クラブのバニーにも負けない接客・・・
夜の女として肌を晒し、怪しい男達の中で・・・
あの由利子に・・・これが出るだろうか・・・



やはり・・・このユリと云う女は・・・
俺の妻、由利子ではないのだろうか・・・
どう見ても由利子本人なのに・・・



A woman with vibrant red hair, styled in a ponytail with bangs, is shown from the chest up. She is wearing a white dress with a black bowtie. She is smiling slightly and lighting a cigarette for a man whose profile is visible on the right. The man has short, dark hair and is wearing a black suit jacket. The woman is holding a purple lighter. The background is dark and textured.

そして……ユリの左眼の下には……
小さな黒子ほくろが在った……

俺の妻、由利子には……
こんな黒子ほくろは無かったのだ……





ははは…まあまあ…
原田さんなら、当てるぞ…

若く見えるが…この女が、妻の由利子なら…
今はもう…三十歳になっている筈だ…



え…いやあ…
二十…六、歳ですか…?



あ、もう…
まだですか？オーナー…

ところで原田さん…
ユリって幾つに見えます？

二十六？…
そろあまた若いな…

まあ…原田さんも男や…
やっぱ女には甘いか…はは…

有り難う御座います♪
お世辞でも嬉しい…

でも、もう今年で
みそじ
三十路になりました…

フフ…

え？…ホントに？
とても、見えないな…

やーん、もう…
お上手ですね♪

原田さん…ホンマの事
言わんとダメですよ

やっぱり…由利子と同じ歳…
何なんだ…どうなってるんだ？



続きは...本編でお楽しみ下さい。





寝取られ妻
マスカレード